

# とがち高等教育推進まちづくり会議 企画・事業部会

## 令和3年度 検討状況報告

# I 取り組みの方向性

本会議の取り組みの方向性は以下のとおり。

令和3年度は、帯広畜産大学から国立大学法人北海道国立大学機構の経営方針等や「アグリ・フードビジネスマネジメント人材養成」に関連する取り組みについて情報提供をいただき、部会において意見交換を行った。また、「若者の地元定着と地域課題解決の促進」に向け、帯広市と帯広畜産大学の連携による取り組みを進めた。

## (1) 地域ぐるみの人材育成

- ① 食品安全管理のスペシャリスト養成
- ② 地域連携による国際水準の獣医師養成
- ③ アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成

## (2) 人材活躍の場・環境づくり

- ① 若者の地元定着と地域課題解決の促進
- ② 人生100年時代を見据えた生涯学習の支援
- ③ 地域産業の活性化

## Ⅱ 国立大学法人北海道国立大学機構に関する 情報提供について

### 第2回企画・事業部会

開催日時 令和3年10月20日(水) 10:00～11:15  
開催方法 オンライン開催

- 協議事項 ①企画・事業部会の取り組み経過について  
②国立大学法人北海道国立大学機構に関する情報提供について

### □帯広畜産大学からの情報提供(概要)

- ・帯広畜産大学、小樽商科大学、北見工業大学が令和3年7月に公表した「経営統合による新たな国立大学法人の経営方針等について(最終まとめ)」をもとに説明

#### (主な内容)

- ・北海道国立大学機構の経営体制、組織概要、経営方針等について
- ・三大学の商農工連携・融合型人材育成拠点「教育イノベーションセンター」における連携教育・リカレント教育・遠隔教育等の運営について
- ・三大学が有する研究成果、人的資源等を活用した商農工の融合による学術振興及び研究成果の社会実装を推進する「オープンイノベーションセンター」の運営について

## Ⅱ 国立大学法人北海道国立大学機構に関する 情報提供について

### □主な質疑

[質問①] 企業として大学と連携できたらと思うが、外部資金投入の考えはあるか。

[回答①] チャンスがあれば、積極的に投入していきたい。寄附や企業体との共同研究、企業と組んで国の補助金の獲得など、大学の活性化や研究教育環境の活性化、地域への研究成果・人材の輩出など、積極的に取り組んでいきたい。

[質問②]

3大学のリカレント教育のテーマとして「HACCP」が選ばれたと伺っている。当会議にて扱ってきた取り組みであり、テーマの選定にあたって、まちづくり会議で議論してきたことが、少しでも参考になったということがあったら教えて欲しい。

[回答②] 本学が提供したHACCP案件については、まちづくり会議の中で、地域からの要望が強いということを感じることができた。HACCP・食品安全関連について、道内外から社会人教育の要望は強くあるので、具体的にどのようなプログラムとするか検討中であるが、この場でHACCP関連の要望をいただいたことは重く受け止めており、さらに発展させていきたい。

## Ⅱ 国立大学法人北海道国立大学機構に関する 情報提供について

### □主な質疑

[質問③] 教育研究支援組織のオープンイノベーション・センターと産学連携センターとの関わりについて教えて欲しい。

[回答③] オープンイノベーションセンターは、各大学の産学連携センターをバーチャルでつなぎ、地域課題に関する情報共有や研究プロジェクト立案に向けたマネジメント機能を有する組織として設置する。情報基盤は北見工業大学に置かれ、一つの組織体として、得られた情報を三大学や地域の合意を得つつ、課題解決能力を発揮していくことを目指す。

[質問④] 各大学を卒業して、北海道に残って就職する方がどの程度いるのか。

[回答④] 本学は入学生の6～7割が道外出身であるが、道内就職者が例年5割を超えている。そのため、本学は道外出身者で道内に就職する者が多いと考える。また、約6年前から新入生の過半数が女子学生となっており、卒業生が地域に就職することで、農業・畜産の世界でも女性比率が高まっていく可能性はあると考える。小樽商科大学の入学生は道内出身者が多く、卒業後も道内に残る割合が多いようだ。北見工業大学は道外入学生が多いが、元の地域に帰っていく割合が多いという傾向にあるようだ。

## Ⅱ 国立大学法人北海道国立大学機構に関する 情報提供について

### □主な質疑

[質問⑤]十勝の農業は大規模化に伴い、AI、IoTの導入が行われているが、技術・通信費のコスト低減が必要である。三大学が、それぞれの良さを最大限に活かし、現場に実学として根付かせ、コスト低減に繋げていただきたい。

[回答⑤]研究の具体的な成果でコストパフォーマンスの向上を目指す場合、短期間でどうやって解決していくかをより強く意識する必要がある。民間の方々のコスト意識というものをご意見いただく中で、一緒に取り組んでいければと考える。

[質問⑥]農研機構は帯広畜産大学との共同研究などを進めているが、経営統合後の三大学との取り組みにも期待している。マーケティング、売り込むということが非常に重要だと思うので小樽商科大学が入ることは非常に期待している。

[回答⑥]三大学が手を合わせてより良い研究成果や人材を輩出していくことには、賛同いただいていると思うので、今後も地域のみなさまの協力をお願いしたい。

# Ⅲ 「アグリ・フードビジネスマネジメント人材養成」に関連する 帯広畜産大学の取り組みについて

## 第3回企画・事業部会

開催日時 令和4年2月14日(水) 10:00～10:50  
開催方法 オンライン開催

### □協議事項 ①「アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成」に関連する 帯広畜産大学の取り組みについて

### □帯広畜産大学からの情報提供(概要)

- ・帯広畜産大学から資料提供のあった「三大学の副専攻型プログラム」「フードバレーとかち人材育成事業」をもとに説明

#### (主な内容)

- ・文理融合・農商工連携という観点から検討している副専攻型プログラムについて(※帯広畜産大学はスマート農畜産業プログラムを提供(R3から講義として実施))
- ・帯広畜産大学と帯広市の共同事業であるフードバレーとかち人材育成事業の開催状況と修了生の活躍状況について(事業目的:十勝を活性化する企業の担い手、将来的な産業のリーダーの育成)

## Ⅲ 「アグリ・フードビジネスマネジメント人材養成」に関連する 帯広畜産大学の取り組みについて

### □主な意見

#### [三大学の副専攻型プログラムについて]

[意見①]商農と様々なことを学べるのは良いこと。自分も大学時代は副専攻を学んでいた。大学時代は色々と学びたい時期であり、素晴らしい取り組みと考える。

[意見②]コロナ禍で同じ場所に集まれないという問題は生じたが、WEB会議だと地理的に離れた人も繋がりやすくなるため、これをうまく利用すると良い。

#### [フードバレーとかち人材育成事業について]

[意見①]ビジネスコースは、たくさんの方が受講しており、実績を残していることに感銘を受けた。コロナ禍で、既存事業についても存続が厳しくなっている事例が散見される。十勝の食や農などの強みを活かす事業が育ってくれることを期待している。

[意見②]多くの参加者がいることから価値のある事業だと思う。職員や新卒の意見を聴くと、食の安全に対する期待度は大きく、十勝型のGAPに事前に慣れ親しんでいるのはありがたいと感じている。



# IV 若者の地元定着と地域課題解決の促進

## ■令和3年度の取り組み

### 学生と地域がつながるまちづくり支援事業

#### 目的

学生が十勝について学び、関心を高める実学教育・キャリア教育の充実や、学生による自主的なまちづくり活動の支援に取り組み、在学中から卒業後までを見据えた学生と地域とのつながりを強化することを目的とする。

#### 関係人口候補化プログラム

学生が十勝について学び、理解を深めることで、地域への興味や関わりを持ち、自主的に十勝とつながるきっかけづくりを目指す

##### ① 十勝について学ぶ地域連携型授業の実施

###### ■とがち学

##### ② 現場を深く知る課外教育の実施

###### ■十勝旅

###### ■経営者とガチで学ぶ交流会×勉強会

##### ③ 学生と十勝をつなぐプログラム

###### ■ちくだいスタートアップ体験プログラム

#### アクション支援プログラム

学生が企画・実施するまちづくり活動を支援することで、地域愛の醸成や新たな視点からの地域活性化を図る

##### ① 企画運営の体験機会の提供

###### ■十勝ジンギスカン会議

##### ② 地域活性化に向けた自主的活動の促進

###### ■ちくだいらんぷプロジェクト

##### ③ 地域産業の活性化支援

###### ■学生と地域企業の共同研究

# IV 若者の地元定着と地域課題解決の促進

## ■令和3年度の実施状況

### □とがち学

実施日:令和3年4月14日～7月28日(全15回)

講師:奥田学長、米沢市長 他13名

受講者数:158名(内訳:1年生98名、2年生2名、3年生2名、4年生3名、小樽商科大学47名、北見工業大学5名、一般聴講1名)

### □十勝旅

5月29日に「チーズ」をテーマとした取り組みを予定し、学生の募集を行ったが、緊急事態宣言の発令に伴い実施が延期となった。その後も実施の目処が立たないことから事業を中止とした。

対象:共同獣医学課程を含む学部1年生

### □経営者と「ガチで」学ぶ交流会×勉強会

北海道中小企業家同友会とがち支部で企画した構成員向けの勉強会に学生がオンライン参加

開催日:令和3年7月28日

講師:(株)そら 米田 健史氏「『なぜ十勝』を『だから十勝』に。(株)そらが事業を通じて実現したいこと」

参加者:1名

開催日:令和3年10月20日

講師:SPACE COTAN(株) 小田切 義憲氏「北海道に宇宙版シリコンバレーをつくる」

参加者:5名

# IV 若者の地元定着と地域課題解決の促進

## ■令和3年度の実施状況

### □ちくだいスタートアップ体験プログラム

当初4名の参加者でスタートしたが、学生の途中辞退等により、事業の継続が不可能となったため中止とした。

実施日：令和3年10月7日～令和3年10月28日（全9回実施予定のうち、5回まで実施）

対象：帯広畜産大学学生全員

### □十勝ジギスカン会議

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

### □ちくだいらんぷプロジェクト

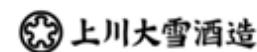
対象：帯広畜産大学学生全員（個人・団体）

採択事業：おびひろ動物園活性化コース 2件、文化・スポーツコース 2件

### □学生と地域企業の共同研究

対象：帯広畜産大学学生全員

採択件数：6件



（図）帯広畜産大学HPより

# V 今年度の取り組み

## (1) 取り組みの検証

平成23年度の方針転換(十勝大学設置促進期成会)から約10年間が経過したことから、これまでのまちづくり会議の取り組みの検証作業を行う。

地域発展に必要な高等教育機関の方向性について(平成23年5月30日 十勝大学設置促進期成会総会資料)  
今後の大学の公私協力方式での大学誘致・看護系大学・医科大学などとの取組とは別の考え方に立つこととし、これからの大学の取組は、帯広畜産大学を核に地域特性・優位性を活かし、まちづくりと連動させながら、段階的に高等教育機関の整備をすすめる取組へと方針転換する。

## (2) 人材活躍の場・環境づくり

学生と地域がつながるまちづくり支援事業の実施

### □関係人口候補化プログラム

- とがち学
- 十勝旅
- 経営者とガチで学ぶ交流会×勉強会
- 「ビジネス・キャリア・地域理解」をテーマとした取り組み(仮)

### □アクション支援プログラム

- ちくだいらんぷプロジェクト
- 学生と地域企業の共同研究